大人用

伝道地便り

2024年第４期　北アメリカ支部

第１話「目覚ましコール」　アリゾナ

第２話「完璧な物件」　アリゾナ

第３話「イエス様が助けてくださった」　アリゾナ

第４話「なぜ？と言う少年」　アラスカ

第５話「目を覚まして祈ろう」　アラスカ

第６話「脅されて教会へ！」　アラスカ

ADVENTIST MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団　伝道局　安息日学校部

伝道地便りの用い方の ヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか列挙いたします。

1）前もって何度か目を通し、自信を持って読む。

2）棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。

3）伝える時間はできるだけ短く。長くても５～７分。

4）誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。

5）できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。

6）時には、スキット（寸劇）風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。
主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」
紹介しましょう。

1. 目覚ましコール　アリゾナ

マリサ

マリサは夜中の２時半に突然目が覚めました。目が覚めた理由は何も思い当たりません。彼女はワシントン州スポーカンのアパート３階にある自宅でぐっすりと眠っていました。お手洗いに行ったほうがいいのかしら？と彼女は思いました。

数分後、トイレから寝室に戻ろうとすると窓の外に異常な黄色い光が見えました。窓の外を見ると、彼女の寝室の外壁から熱い炎が吹き上げているではありませんか。アパートが火事になっていたのです。

マリサは２匹の犬、マギーとデイジーを呼びました。

「来るのよ！」と彼女は命じました。

犬たちは部屋の隅に縮こまっていました。異変を感じていたのです。

マリサの指示で犬たちは、彼女のあとに続いてリビングルームに行きました。彼女が玄関の戸を開けるやいなや黒い煙が吹き込んだので、彼女は急いで扉を閉めました。

「おいで！」と彼女は言いました。

マリサと犬たちはバルコニーに行きました。３階から見下ろすと人々が走り回っているのが見えます。アパートの道向かいはホームレスがいる公園でした。ホームレスの人たちは必死に窓やドアをたたき、人々に火事を知らせていました。その中のリーダー格の人に向かってマリサは叫びました。

「助けて！　どうしたらいいか分からない。玄関から出られないの」

男の人は上を見上げてとても真剣な顔になり、「助かるためには飛び降りなきゃだめだ」と言いました。

「犬が二匹いるの」

「その犬たちを落とすんだ」

そこでマリサは犬を一匹ずつ抱き上げて落としました。それから自分も手すりを乗り越えて〔３階から〕２階のバルコニーへ移り、そこから地面に飛び降りました。

打撲傷と足首の捻挫は気になりませんでした。ただ一つの心配は犬たちでした。

「マギー！　デイジー！」と彼女は叫びました。

近所の女性が犬たちは無事着地して公園の方に走って行ったと教えてくれました。

それを聞いたマリサは胸をなでおろしました。そして犬たちの名を呼びながら公園へと向かいました。

ところが犬たちの姿はどこにも見えませんでした。

マリサは、携帯電話はアパートに残してきてしまい、覚えていたのは兄弟の電話番号だけでした。電話を借りて兄弟に電話したところ、彼は２回目の呼び出し音で出ました。マリサはびっくりしました。普段彼は、ぐっすり眠っていてなかなか目を覚まさないからです。

マリサは彼に何が起こったか伝え、「来て犬たちを探すのを手伝ってほしい」と頼みました。

彼はやってきて、２人は車で犬たちを探し回りました。

消防車が到着しました。

「もう一度、公園に戻りましょう」とマリサは言いました。

公園でマリサが犬たちの名を呼ぶとマギーが走り寄ってきました。マリサは喜びのあまり地面に崩れ

るようにして、涙ながらにマギーを抱きしめました。

デイジーを見つけるまでには、結局17時間かかりました。知らない人たちも協力して、デイジーを一生懸命に探してくれました。迷子のペットを扱うソーシャルメディアがこの件を取り上げてくれました。マリサは地元テレビチャンネルから取材を受け、警察も告知してくれました。

その夜、マリサの兄弟からデイジーが見つかったとの知らせがありました。彼が道でデイジーの名を呼んでいると、デイジーは彼の声だとわかって走ってきたのです。見物人たちはマリサとデイジーの喜ばしい再会を携帯電話の写真に収めました。

マリサにとってそれは奇跡的な夜でした。彼女は火事ですべてをなくしてしまいましたが、神様は自分と犬たちの命を救ってくださったのです。

しかし、どうしてでしょうか？

彼女はその答えを求めて祈ったとき、「それはまだあなたにしてほしい仕事があるからだよ」と神様がおっしゃったように感じました。その言葉に彼女の心はいやされました。

マリサは以前、青少年と子どもたちのメンタルヘルス分野の仕事をしていました。彼女は青少年矯正官として、アメリカ政府とセブンスデー・アドベンチスト教会から雇用されていました。ところがコロナの波が襲ったとき、彼女は職を失ってしまったのです。いつもは楽天的な彼女も、希望の見えない暗闇に沈んでしまいました。

しかし、この災難で彼女は深い悲しみから立ち直りました。神様がまだ自分を必要としておられることに気づいた彼女は、子どもたちのために働くという使命を思い起こし、その仕事に戻ることを決意しました。

数か月後、彼女はホルブルック・セブンスデー・アドベンチスト・インディアン学校で女子の学生部長として働くためにアリゾナに引っ越しました。学校の女子寮で女の子たちにすっかり気に入られたマギーとデイジーに助けられて、数十人の女の子たちを指導する仕事をしています。

彼女にとってこれほど幸せなことはありません。「これ以外のことは考えられません」と彼女は言います。

2018年と2021年の13回献金の一部はホルブルックセブンスデー・アドベンチストインディアン学校に新しい学生生活センター（Student Life Center）を建てるために送られました。今回の伝道地便りはこの学校の舞台裏のお話をお伝えするものです。北アメリカ支部に福音を広めるためにおささげくださる13回献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- アリゾナ州のホルブルックを地図で示しましょう。
- マリサとマギーとデイジーのユーチューブビデオを見てみましょう。
  bit.ly/NAD-Marisa
- この話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 北アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をシェアしましょう。bit.ly/nad-2024
- ホルブルックセブンスデー・アドベンチスト・インディアン学校はセブンスデー・アドベンチ教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように、個人または家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「子ども、青年たちの入信、定着、再定着、礼拝出席を増加させる」（「霊的成長の目標」No.6）
  詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- アメリカ合衆国の国旗の13の縞は東部13州の英国植民地をあらわしており、紺地にちりばめられた50個の白い星はアメリカの50の州をあらわしています。
- アメリカ合衆国の「国の動物」はアメリカバイソン、「国の木」はオーク、国鳥は白頭ワシ、そして国花はバラです。

2. 完璧な物件

アリゾナ

ペイジアールネーションズ
セブンスデー・アドベンチスト教会

セブンスデー・アドベンチストの人たちは米国アリゾナ州にあるナバホ族の特別保留地に教会をつくりたいと思っていました。世界中の教会員たちは2011年、このプロジェクトのための13回献金をささげました。しかし大きな課題がありました。教会をどこにつくるかです。

教会をつくる理想の場所として、ナバホ族の特別保留地の端にあるペイジという町が選ばれました。しかしながら教会を単純に建てることはできませんでした。市当局は、すべての教会は特定の通りに建てなければならないという規則を定めていました。その通りはさまざまな教会が建っていることでよく知られており、「教会通り」あるいは「聖なるカーブ」と呼ばれていました。

しかし、その通りには新しい教会を建てるスペースが残っていなかったのです。そこで残された唯一の選択肢は、所有者に売却する意思があり、既存の教会の建物を購入することでした。

その通りには、使われていない教会が一つありました。それは南部バプテスト派の教会で、教会堂は、教会員たちが高齢になり亡くなったために、荒廃していました。教会の責任者である年配の執事は、その土地と建物を売りに出すことに決めました。

その不動産の値を決めるために鑑定人が呼ばれました。鑑定人は米ドルで85万ドルの値段を付けました。

しかし、アドベンチスト教会は85万ドル持っていませんでした。新しい教会のために集められた13回献金の割り当てはこれよりも少なかったのです。北アメリカ支部からの寄付の他、通常13回献金に付加されるものを加えてもそれだけのお金にはなりませんでした。アドベンチストの指導者たちは南部バプテスト教会の執事と話をし、そして祈りました。

さて、その不動産に興味を持っていたのはアドベンチストだけではありませんでした。

その不動産は町に入ってくる主要な道の最も良い場所を占めていました。さらにそこは道を挟んで公立学校の真向かいにありました。人気のファーストフードチェーンがレストランを開くのに最適な場所だと考えたのです。そのファーストフードチェーンは教会執事と連絡を取り、200万ドルで売ってほしいと言いました。

その執事は熱心に祈りました。祈るうちに、彼は人々がファーストフードレストランよりも教会を必要としていると感じました。彼は南部バプテスト協議会の教会指導者たちに、アドベンチストたちに25万ドルで不動産を売ることを提案しました。そして、その指導者たちの承認の下、彼はアドベンチストたちにその値段を提示したのです。13回献金およびその他のささげもの額は、その不動産を購入するのに十分でした。

「それは信じ難いことでした」と、ナバホ族の特別保留地のみならずユタ州とネバダ州でもアメリカ

ペイジ教会の庭にいるナンシー・クロスビー

先住民に対するアドベンチストアウトリーチを指導しているナンシー・クロスビーさんは言います。「神様が道を開いてくださったことを疑う余地はありません」

ふつう、新しい教会を建てる場合、数人の人たちが家で集会を持つことからスタートします。人数が増え、人々がそこに入りきらなくなると、より大きな場所へ移ります。しかし、ペイジでは会衆の規模をはるかに超えた建物が最初から与えられました。

「まるで馬よりも馬車が先に用意されたような感じでした」とナンシーは言っています。「けれども神様は、ご自分のなさっていることをご存じでした」

アリゾナ州のペイジアールネーションズ・セブンスデー・アドベンチスト教会設立のために用いられた2011年の13回献金を感謝いたします。ナンシーと彼女のご主人かつ教会牧師であるジェームズを含め、アメリカ先住民と福音を分かち合っている働き手たちのためにお祈りください。

〈お話のヒント〉

- アリゾナ州のペイジ（町）を地図で示しましょう。
- 来週、ジェームズ牧師のペイジ教会における働きについてさらにお読みください。このお話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 北アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をシェアしましょう。bit.ly/and-2024
- アリゾナ州ペイジにおける教会施設はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目を実行しようと努力しています。

「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）

「聖霊に満たされた生活を送れるように個人または家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）

「子どもや青年たちの入信、定着、教化、参加を増やす」（「霊的成長の目標」No.6）

詳細はウェブサイト、IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- アメリカ合衆国には公用語がありません。そこでは350以上もの言語が話されており、そのうちの主要な２つは英語（２億4500万/78.5%）とスペイン語（4130万/13.2%）です。
- ミズーリ川は米国で一番長い川で全長2341マイル(3767キロメートル)あります。この川は７つの州（モンタナ州、ノース・ダコタ州、サウス・ダコタ州、ネブラスカ州、アイオワ州、カンザス州、ミズーリ州）にまたがって流れています。
- アメリカ合衆国の中の最も暑い場所はデスヴァレーであり、北アメリカ大陸の最も低い地点はバッドウォーター・ベイシンであり、海抜マイナス86メートルにあり大量の塩が堆積した盆地です。

3. イエス様が助けてくださった　アリゾナ

ジェームズ

コン！コン！コン！

それは土曜日の夜のことでした。アリゾナ州、ナバホ族の特別保留地の端の町ペイジにあるジェームズ牧師の家のドアを、鋭く叩く音が聞こえました。

外には１人のアメリカ先住民の男が立っていました。

「娘を助けてほしい」と彼は言いました。「腹痛を起こしているんだ」

見ると、車の中に娘と母親がいます。「病院に行く必要がありますか？」とジェームズは尋ねました。

「いや、違う」と父親は言いました。「ただ祈ってくれればいいんだ」。

ジェームズは彼女を家の中に連れてくるように招きましたが、父親は首を振りました。

そこで、隣のセブンスデー・アドベンチスト教会を示し、「彼女を教会にお連れしますか？」と尋ねました。彼は牧師として２か月前にペイジの教会に赴任したばかりでした。

「そうするよ」と父親は言いました。

彼が教会の裏口に車を寄せると、母親がまず車を降りました。

「ここに聖水はありますか？」と彼女は尋ねました。

彼女によると、一家は別の教会に行ったばかりで、そこで司祭に娘に聖水を振りかけてくれるよう頼んだとのことでした。しかし、司祭は断り、彼らを追い払ったと言います。

「私たちは、聖水は使いません」とジェームズは言いました。「私たちには聖書があります」

「娘は悪霊にとりつかれているのです」と母親は言いました。

ジェームズは困惑しました。「何が起こっているのだろう？　母親は彼女が悪霊にとりつかれていると言っているが、父親は彼女の腹痛のために祈ってほしいと言っている」

父親は車のドアを開けて娘が外に出るのを手助けしました。彼女は体を折り曲げ、お腹を抱えていました。歳は20代後半に見えました。

ジェームズは悪霊にとりつかれたケースにこれまで関わったことはありませんでしたが、「もし、彼女がとりつかれているなら教会には入りたくないはずだ」と思いました。

彼はその若い女性が父親の後をついて教会に向かうのをながめました。しかし、裏口から入ろうとした時、彼女は口から泡を吹き始めました。そして彼女は床にうずくまり、口から動物のようにうなり声をあげました。

彼女よりもかなり体格の大きい父親は、「私はおまえを怖がっていない」と言いました。

彼はジェームズのほうを向くと焦った様子で、「祈ってくれればいいんだ。これを終わらせてくれ」と言いました。

一方、母親は怖がって、娘から後ずさりしました。母親は震える声で、「イエス様の御名によって、イエス様の御名によって」と唱えました。

ジェームズが聖書を手に取ると、マルコによる福音書９章が自然に開きました。そこにはイエス様が汚れた霊を子どもから追い出される話が記されていました。イエス様が子どもの父親にされた質問を真似て、ジェームズは尋ねました。「いつごろからこのようになったのですか？」

娘の父親はその質問に腹を立てました。彼は自分の娘が悪霊にとりつかれていることを認めたくなかったのです。ただ祈ってほしかったのです。

その間、母親は、「イエス様の御名によって、イエス様の御名によって」と唱え続けていました。

すると娘が襲いかかりました。彼女は父親を背後からとらえ、首を絞め始めました。

ほんの少し前までは娘のことを怖くないと言った父親は、「助けて！　助けて！」と叫びました。

母親は、恐ろしさのあまり教会から逃げ出しました。

ジェームズは娘の背後から近づき、軽く彼女の肩に触れました。すぐに彼女は父親を放し、父親は逃げ出しました。

ジェームズはどうしたらいいかよくわかりませんでしたが、恐れてはいませんでした。彼には、神様が守ってくださるという、まったき平安があったからです。

彼が触れたのを感じて、娘はゆっくりと後ろをふりかえり、ジェームズをじっと見つめました。そして彼女は手を上げました。ジェームズは少しずつ後ずさりして、とうとう背中が壁につくところまで来ました。彼女も彼についてやってきて今、彼の正面に立ちました。彼女の手は、今にも彼を打ち叩こうとするかのように上にあげられたままでした。しかし、彼女は彼に触れませんでした。ジェームズが彼女の目をのぞくと、その目はまるで彼女の人格が抜けてしまったかのように空っぽでした。まるで彼女の存在が消えてしまったようでした。ジェームズは、イエス様が彼女を救い出してくださるように、静かに祈りました。

ほどなくして、彼女は床に崩れ落ちました。

ジェームズはイエス様が彼女を回復してくださるように祈りました。

彼女は起き上がって椅子に座りました。彼女はまったくちがった人になっていました。彼女はふつうの声で、「だれが私を助けてくれたの？」と尋ねました。

彼女を助けたのはイエス様でした。

父親が部屋に戻ってきました。彼は、安心したように「あぁ、これが私の娘だ、これが私の娘だ」と言いました。

母親も部屋に戻って来ると、ジェームズは一家を促して、一緒に感謝の祈りをささげました。ジェームは、イエス様の力について彼らに語りました。

「この種のものは、主に助けを求めることがとても大切です」と彼は言いました。

家族が帰る時、ジェームズはエレン・ホワイト著『キリストへの道』という１冊の本を彼らに手渡しました。

ジェームズはその後、この家族に会っていません。彼らがその後、どうなったかもわかりません。しかし、あの夜の出来事から、ナバホ族の特別保留地におけるキリストとサタンとの間の大争闘がとても現実的なものであるということを理解しました。

ナバホ族の人たちのために祈ってください。ジェームズ・クロスビー牧師とそのご家族の働きのために祈ってください。この出来事が実際に起きたアリゾナ州のペイジアールネーションズ・セブンスデー・アドベンチスト教会設立のために皆様がおささげくださった 2011 年 13 回献金を感謝申し上げます。

〈お話のヒント〉

- アリゾナ州のペイジ（町）を地図で示しましょう。
- ジェームズ牧師と彼の妻ナンシーはアメリカ先住民と福音を分かち合うことに完全に献身しています。ジェームズはペイジの教会牧師であり、ナンシーはアメリカ合衆国アリゾナ州、ネバダ州、そしてユタ州のアメリカ先住民に対するセブンスデー・アドベンチスト教会の働きを監督しています。
- このお話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 北アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をシェアしましょう。bit.ly/nad-2024
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「IWillGo」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように個人または家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「子どもや青年たちの入信、定着、教化、参加を増やす」（「霊的成長の目標」No.6）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

豆知識

- アリゾナ州は、北米最大のインディアン保留地であるナバホ・ネイションの本拠地であり、その保留地の面積は25000平方マイル（40000平方キロメートル）以上にわたります。今日、アリゾナの保留地には22の部族が住んでおり、合計42万5000人以上のアメリカ先住民たちがそこに暮らしています。これは、州人口の６％が州の土地面積の４分の１を占めていることになります。

4. なぜ？と言う少年　アラスカ

アディーブ

ジェームズは「質問ボーイ」でした。

サマーキャンプで何かするように言われると、いつでも「なぜ？」と言うのです。

「なぜこれをしなければいけないの？」、「なぜあれをしなければいけないの？」と、ジェームズのなぜは尽きません。

ジェームズは孤児でした。両親亡き後、彼は親戚たちとアラスカの先住民の小さな村に住んでいました。その親戚が彼をサマーキャンプに送りました。ジェームズは飛行機でディリングハムの町まで飛びました。アラスカにはあまり道路がないため、人々はしばしば飛行機を使って移動するのです。

ディリングハムに着くと、ジェームズは30分バスに乗って湖まで行きました。それからキャンプ・ポラリスまで15分ボートに乗りました。キャンプ・ポラリスはちょうど彼のようなアラスカ先住民の子どもたちのためのセブンスデー・アドベンチスト・サマーキャンプです。

ジェームズはすぐにキャンプが気に入りました。特に楽しんだのは湖でのウォータースポーツです。ボートで引っ張ってもらって湖上でのさわやかなライドを楽んだり、空気で膨らませたオレンジとブルーのいかだに満面の笑顔で飛び乗ったりしました。夏にもかかわらず、水は氷のように冷たかったので、湖に落ちないように気を付けて遊びました。

夕礼拝の時、ジェームズの笑顔はしかめ面に変わりました。お祈りするときは全員立ち上がりました。ジェームズと同じキャビンに泊まっている７人の男の子たちも立ち上がりました。彼らのキャンプカウンセラーであるアディーブも立ちました。しかし、ジェームズは椅子に座ったままでした。

アディーブは「立たなくちゃだめだよ」とジェームズにささやきました。お祈り中は神様に敬意をあらわすために、全員が立たなくてはならないというキャンプの決まりがあったのです。

ジェームズは黙って立ち上がりました。しかし顔はしかめっ面でした。

翌日、朝礼拝のお祈り中、ジェームズは座ったままでした。夕礼拝のお祈りでも立ち上がりませんでした。そしてお祈りの最中に彼は横を向き、隣の少年に向かって話し始めました。アディーブに何度注意されても、言うことを聞きませんでした。

３日目のお祈りでも立とうとしないジェームズを見て、アディーブは彼と話をするために一緒にロッジの外へ出ました。

外で、アディーブはジェームズとキャンプでの規則を確認しました。「もし今の態度をとり続けるなら、それに対する結果が伴うことになるよ」と彼は言いました。「神様に敬意をあらわすために、お祈りするときは立ち上がって、おしゃべりをしてはいけないんだ。どうして君は立たないんだい？」

「どうして立たなきゃいけないの？　どうしてしゃべっちゃいけないの？」とジェームズは言いました。「ぼくは神様を見たことがない。神様がいるかどうかさえ知らないんだ」

これはジェームズに神様のことを教える機会だ、とアディーブは思いました。彼はキャンプ場でたびたび吹く風について話しました。

「風は目に見えないけど、木の葉が揺れたり肌で

感じたりするからそれが実際に存在することがわかるだろう？　同じように神様は目に見えないけれども、神様が自分のそばにおられることを感じることができるんだ」

彼は夜の星についても話しました。

「夜空に雲がある時、星は見えない。でも星があるということは知っているだろう？　同じように、神様は目に見えないけれども、神様が自分のそばにおられることを感じることができるんだ」

ジェームズの目に涙が浮かんできました。

「どうやってそれがわかるの？　もし神様がいるのならどうして悪いことが起こるの？　お母さんが死んだとき、神様は何をしていたの？　お父さんが死んだとき、神様はどこにいたの？」という言葉がジェームズの口からこぼれました。

アディーブは死というものが神様のもともとのご計画には含まれていなかったこと、最初の人間であるアダムとエバが神様に背いて罪を犯したために痛みと死がこの世に入ったこと、神様はみんなの罪の身代わりになるためにひとり子であるイエス様を遣わされたこと、そして、だれでもイエス様を信じるなら痛みも死もない世界でイエス様と永遠に生きるようになることについて話しました。「神様を見ることができなくても、神様はおられるんだよ」とアディーブは言いました。

ジェームズは静かに聞いていました。「神様ってほんとにいるの？」彼は思いを巡らしているようでした。

それからは、ジェームズはお祈りの間、黙って立っていました。彼は自分が何を考えているのかを口にはしませんでしたが、アディーブは彼が神様に思いを向けていればいいなと思いました。

アラスカ州、ディリングハムの近くにある湖に設けられたキャンプ・ポラリスはアラスカ先住民の子どもたちのために開催されている唯一のセブンスデー・アドベンチスト・サマーキャンプです。2016年の13回献金の一部でキャンプの新しい小屋やトイレがつくられました。アラスカ州、ベテルに送られる今期の13回献金をとおしてイエス様の愛を分かち合ってくださることを感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- アラスカ州、ディリングハムの位置を地図で示しましょう。感化センター設立のために今期の13回献金の一部が送られることになっているベテルの位置も教えましょう。
- アラスカ先住民の子どもたちのサマーキャンプ参加費用はセブンスデー・アドベンチスト教会と寛大な寄贈者の方々によって賄われています。
- 話に出てくるジェームズという名前は、未成年者のプライバシーを守るための仮名です。
- このお話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 北アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をシェアしましょう。bit.ly/nad-2024
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I WillGo」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
  「聖霊に満たされた生活を送れるように個人または家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「子どもや青年たちの入信、定着、教化、参加を増やす」（「霊的成長の目標」No.6）
  「青年が神様を第一とし、聖書的世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.7）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

宣教メモ

- アラスカはノース・パシフィック・ユニオン・カンファレンスに属しています。このカンファレンスには448の教会、61の集会所、そして102,187人の信徒がいます。人口は約15,767,000人なので、158人に1人がセブンスデー・アドベンチストということになります。
- アラスカのバローにある教会は、世界中にあるアドベンチスト教会のうちで最北端に位置しています。
- ジャスパー N. シルベスター（アメリカの「預言の声」創設者であるH.M.S. Richards, Sr.の祖父）はアラスカのスカグウェーで鍛冶屋をしていました。彼はその区域における初期のアドベンチストの1人でした。

5. 目を覚まして祈ろう　アラスカ

ウェス

アラスカ州のキャンプ・ポラリスの所長はキャンプで起きている超自然現象について話し合うために夜遅くの緊急会議を招集しました。

キャンプの便利屋として働いていたウェスは、メインロッジで行われた緊急会議に参加し、他のスタッフメンバーたちと話し合い、祈りました。キャンプカウンセラーとして働いている彼のガールフレンド、レイチェルがその場で報告したことは、お世話している８人のアラスカ先住民の女の子たちがいるキャビンで起こっている奇妙な出来事についてでした。寝る前のお祈りや礼拝の中で、イエス様について話した時はいつでも、消灯後に奇妙なことが起こるというのです。女の子たちは怖がり、悪い夢を見ていると言います。

緊急会議の最後に、スタッフたちはともに祈り、その夜はそれぞれのキャビンに戻りました。

ウェスが自分のキャビンに戻ったときは夜の 11 時近くなっていました。

「今は寝ている場合ではない」と彼は思いました。「今は目を覚まして祈る時だ」

ウェスはキャビンを出て、最近 13 回献金の支援によって新しく建てられた男子トイレに向かって歩きました。

トイレの建物の後ろで彼は腰を下ろして、レイチェルと彼女がお世話している女の子たち、そして彼女たちのキャビンのために祈り始めました。

「主よ、レイチェルのキャビンのまわりに天使たちを送ってください」と彼は祈りました。「参加者たちがこのキャンプを十分に楽しみ、あなたを知ることができるように、あらゆる邪悪な勢力からお守りください」

５分が過ぎ、10 分、15 分と経ちました。

ウェスはこれまで 10 分または 15 分以上祈ったことはありませんでしたが、彼はまだやめたいと思いませんでした。自分の祈りがもう必要ないと感じるまで、彼は目を覚まして祈り続けようと決意していました。

「主よ、どんな悪の力もレイチェルのキャビンに入ることができないよう、あなたの天使たちを送ってください、レイチェルと子どもたちがこれ以上悪い夢を見ないように助けてください。どうか安らかに眠ることができますように。どのようにして彼女たちをもっと助けられるか、私に知恵を与えてください」と彼は祈りました。

20 ～ 30 分祈りました。

その時、何人かの人たちがメインロッジに歩いていく物音が聞こえました。聞きなれない音がしました。彼は祈り続けました。

その後、その人たちがキャンプのボートに向かうのが見えたので、彼は立ち上がって手伝いに行きました。１人の女の子が体調が悪くし、町の病院に連れていく必要がありました。ウェスは救急救命士として訓練されていたので、女の子を病院に連れていくために他の５人のスタッフとともにボートに乗り込みました。彼は、目を覚まして祈っていたおかげで役に立てたことを嬉しく思いました。

女の子を無事に病院に送り届けた後、ウェスと他のスタッフたちはキャンプへと戻りました。時間はもう午前２時でした。夜空は暗く、ボートのソナー（水中音波探知機）はどうも壊れたようです。湖は所々で浅くなっており、ボートが砂州か岩にぶつか

れば座礁や転覆の危険がありました。

ウェスは祈りました。ボートの全員が祈りました。

GPS ナビの助けをかりながら、ボートを注意深くキャンプに向かって進めていきました。しかし、その後速度が落ちました。キャンプ場の岸は目の前にあるはずです。けれども、誰も何一つ見えません。真っ暗闇でした。安全に岸にたどり着くことができないのです。

ウェスは祈りました。ボートに乗っていた全員が祈りました。

突然、明るい光がキャンプの真ん中にあらわれました。その光り輝く白い光がまばゆい光線をキャンプ場に投げかけました。ウェスたちは男の子たちのキャビンを見ることができました。女の子たちのキャビンも見えました。メインロッジも見えました。トイレの建物も見えました。そして、最も大事な湖岸線を見ることができました。

１人のスタッフがボートを光の方向に向けて、岸まで導きました。

陸に上がったとき、ボートに乗っていた者たちは光がどこからきているのかと見まわしました。その明かりをつけてくれた人にお礼を言いたかったのです。しかし、その光は消えて、キャンプは再び暗闇に包まれました。キャンプ場の人はみな、眠っているようでした。

朝になって、ウェスたちは誰が光を灯したのかを調べようとしました。けれども、光を灯したと言う人は誰もいませんでした。みんな、自分は眠っていたと言いました。ウェスは天使がキャンプへの道を示してくれたと信じています。

現在、レイチェルと結婚し、キャンプ・ポラリスの所長をしているウェスは、あの晩、目を覚まして祈ることについての大切な教訓を学びました。

キャンプ・ポラリスで少年たちとカヌーをこぐウェス（右）

「私は、キャンプ参加者が必要な助けを受けられるよう、神様に用いられました」と彼は言います。「目を覚まして祈らなければならないという印象が与えられたので、私はその印象に従いました。私は状況を変えるための手助けをしました。そうしたら、天使が助けてくれたのです。」

キャンプ・ポラリスに新しいキャビンと本物のシャワーとトイレをつくるために役立った 2015 年の 13 回献金を感謝いたします。アラスカ先住民の子どもたちのために特に催されるセブンスデー・アドベンチスト教会唯一のサマーキャンプのためにどうぞお祈りください。

「このキャンプには悪魔の関心を刺激させるものがある」とウェスは言います。「悪魔がここに強い関心を持つのはここで子どもたちに良い影響を与える働きが力強くなされているためだと感じます」

〈お話のヒント〉

- アラスカ州、ディリングハムを地図で示しましょう。
- この話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 北アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をシェアしましょう。bit.ly/nad-2024
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。
  「伝道が及んでいない、あるいは伝道が十分でない地域に住む人々に対するアドベンチストの働きを強化し、多様化させる」（「伝道の目標」No.2）
  「聖霊に満たされた生活を送れるように個人または家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.5）
  「子どもや青年たちの入信、定着、教化、参加を増やす」（「霊的成長目標」No.6）
  詳細はウェブサイトIWillGo2020.orgをご覧ください。

豆知識

- 1959年にアラスカはアメリカ合衆国の49番目の州となりました。

6. 脅されて教会へ！

アラスカ

ジョセフィン

アラスカ先住民の小さな村トギアックで、ジョセフィンとエミリーという２人の姉妹が、日が長くなった夏の晩、ほこりっぽい道を歩いていました。

午後７時頃にもかかわらず、太陽は空高くにありました。太陽が沈むのは、まだ何時間も先で、真夜中頃なのです。

長い夏の日々、村では子どもたちのすることはあまりありませんでした。

「見て！」12 歳のエミリーはセブンスデー・アドベンチスト教会の前に立ち止まると叫びました。「この教会で夏期聖書学校がある。私、行きたい」

夏期聖書学校とは彼女にとって、聖書の面白いお話、楽しい活動、おいしいおやつを意味していました。そして何よりも、夏の暇な時間を埋めてくれるものでした。

エミリーは 17 歳の姉の腕を引っ張りました。

「ねぇー、行こうよー」と彼女はねだりました。

でも、ジョセフィンは行きたくありませんでした。時間を持て余しているにもかかわらず、彼女は教会に行きたくなかったのです。

「私は夏期聖書学校に行きたくないわ」と彼女は言いました。

「でも、私は行きたい」とエミリー。

「だけど、私は行きたくないの、他のことがしたいわ」と、ジョセフィンは姉としての権威をたっぷりこめて言いました。

エミリーは一瞬、悲しそうに見えました。

しかし、ほんの一瞬だけでした。

彼女はここで絶対負けまいと決意し、そのためにぴったりの作戦を持っていました。

「もし行かないなら、私のかみ煙草を分けてあげないから」と彼女は言いました。

ジョセフィンは妹をするどく見つめました。ジョセフィンのかみ煙草はもうなくなってしまい、どこに行けばもっと手に入れられるのか分からなかったのです。彼女は教会をながめました。もしエミリーが本当にかみ煙草を分けてくれなかったら、自分はどんなに不愉快で怒りっぽく、不機嫌になるだろうと思いました。

「いいわ、行きましょう」とジョセフィンは言いました。

こうしてジョセフィンは、妹に脅されて、初めてアドベンチスト教会に足を踏み入れることになったのです。

エミリーが 20 人ほどの子どもたちと活動する間、ジョセフィンは教会堂の後ろの方に座っていました。

しばらくして教会の牧師がジョセフィンのところにやってきて、自分の名前はチャッドだと自己紹介しました。

ジョセフィンがほとんどの子どもたちより年上であることがわかり、牧師は彼女に、夏期聖書学校のための材料やおやつをみんなに配るなどの手伝ってほしいと頼みました。

ジョセフィンはその申し出を受け入れました。

その後、彼女とエミリーは夏期聖書学校の期間中、毎晩７時に教会へ通いました。

夏期聖書学校が終わりに近づいたある日、牧師はジョセフィンを子どもサマーキャンプに誘いました。そこに行くためには、飛行機とバスとボートに乗ら

なければなりません。

ジョセフィーはぜひ参加したいと思いました。しかし、子ども向けのキャンプに行くような年齢でないことはわかっていました。彼女は17歳なのです。

「大丈夫だよ」と牧師は言いました。「キャンプの手伝いをしてくれないか？」

ジョセフィンの顔に大きな笑みが浮かびました。手伝いならばもちろん出来ます。

こうして彼女はキャンプ・ポラリスにカウンセラーとして参加しました。彼女は正規のキャンプカウンセラーを手伝い、あちこちの村からきているたくさんのアラスカ先住民の少女たちが泊まっているキャビンの1つを世話しました。彼女はまた、1週間のキャンプ期間中にイエス様のことをたくさん学びました。

ジョセフィンはサマーキャンプがとても気に入ったので、次の年もまたその翌年も参加しました。キャンプとキャンプの間の期間は家の近くのアドベンチスト教会に通い続けました。イエス様に対する愛が彼女の心に育っていきました。彼女はイエス様のお助けによってかみ煙草をやめることができました。彼女はイエス様に心をささげ、バプテスマを受けました。

ジョセフィンは現在、リーダーとしてキャンプ・ポラリスで働いています。毎年、自分の村から7～10人の子どもたちをキャンプに連れていきます。その子どもたちは夏の間、暇を持て余しているのです。彼らの中にはキャンプ中、かみ煙草なしの生活でニコチン禁断症状に陥り、不愉快で怒りっぽく、不機嫌になる者たちがいます。

しかし、ジョセフィンのように子どもたちはイエス様のことを聞き、イエス様が悪い習慣をやめるよう助けてくださることも学ぶのです。彼らはイエス様と生きることは決して退屈ではなく、イエス様には不可能なことがないことを知って、家に戻っていきます。

教会に自分を連れていってくれた妹のように、ジョセフィンは今、子どもたちを教会へと導いています。しかし、彼女は彼らを連れてくるのに脅しを使う必要はありません。彼女は祈って、彼らをキャンプ・ポラリスに招待するのです。

彼女はキャンプ・ポラリスでのインタビューで次のように言っています。「私は子どもたちと過ごすのが大好きです。私はたくさんの良い友だちを得ました。キャンプ・ポラリスは私に楽しみな目標を与えてくれます」

アラスカ州、ディリングハム近くの湖にあるキャンプ・ポラリスはアラスカ先住民の子どもたちのために特別に催される唯一のセブンスデー・アドベンチストサマーキャンプです。2015年13回献金の一部はキャンプに新しいキャビンと本物のトイレやシャワーを設置するために用いられました。ありがとうございます。現在、私たちはもう1つの13回献金を通してアラスカの人たちにイエス様の愛を分かち合う機会が与えられています。今期の伝道計画の1つはアラスカ州、ベテルで感化センターを通じて福音を分かち合えるように支援します。本日の献金はメリーランド州ボルティモアとミズーリ州セントルイスでのアウトリーチ活動を助けるためにも用いられます。あなたの惜しみない献金を感謝いたします。

〈お話のヒント〉

- 13回献金が送られる北アメリカ支部各地（アラスカ州ベテル、ミズーリ州セントルイス、メリーランド州ボルティモア）の場所を地図で示しましょう。フェイスブックにあげられている伝道地の地図とそのプロジェクトをダウンロードすることができます。bit.ly/fb-mq（日本語版は伝道局HPから。https://adventist.jp/evangelism/ss/伝道地便り/）
- また、アラスカ州ディリングハムの場所も地図で示しましょう。多くのアラスカ先住民の子どもたちがディリングハムまで飛行機で行き、そこから30分バスに乗り、その後、15分間ボートに乗ってキャンプ・ポラリスに到着します。世界の、アラスカ以外の地域で、車が移動手段として一般的に使われるように、アラスカでは飛行機がよく移動に用いられます。アラスカには道があまりなく、村同士の距離が離れていて村の数も少ないため人々の主な交通手段は飛行機とボートなのです。アラスカ先住民の子どもたちがサマーキャンプに行くための費用はセブン

スデー・アドベンチスト教会と忠実な支援者によって賄われています。

- この話の写真をフェイスブックからダウンロードしましょう。bit.ly/fb-mq
- 北アメリカ支部の情報「Mission Posts and Fast Facts」をシェアしましょう。bit.ly/nad-2024

- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」伝道戦略の以下の項目の具体例です。

  「聖霊に満たされた生活を送れるように個人または家族を訓練する」（「霊的成長の目標」No.５）

  「子どもや青年たちの入信、定着、教化、参加を増やす」（「霊的成長の目標」No.６）

  「青年が神様を第一とし、聖書的世界観を実践できるように支援する」（「霊的成長の目標」No.７）

  詳細はウェブサイト IWillGo2020.org をご覧ください。

豆知識

- アメリカ合衆国における最大の肉食動物はアラスカに生息するアメリカクロクマ、グリズリー、そしてホッキョクグマです。
- アメリカ合衆国とカナダの国境地帯にあるスペリオル湖は世界最大の淡水湖で、表面積が31,700平方マイル（51,016平方キロメートル）あります。
- 先月、ピザを食べたアメリカ人の割合は全体の９割以上を占めています。１日にアメリカで消費されるピザはおよそ100エーカー（40ヘクタール）分です。
- 米国には7580万匹の犬がいると推測されており、その数は２番目に犬が多い国であるブラジルの犬の数の２倍以上です。

アルナジク湖にあるキャンプ・ポラリス（右の写真に写っている）での１週間を終え、家に帰る途中、飛行機乗り換えの合間にアンカレッジ空港でポーズをとるアラスカ州ベテルの７人のアラスカ先住民の子どもたち。